

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

グループ理念

人と、社会と、共に喜び、共に栄える。その実現のためにDyDoグループは、ダイナミックにチャレンジを続ける。

ROIC（連結）
4%

ROIC（連結）
8%以上

売上高成長率
9%

営業利益率
3%

2 中長期の経営戦略

1. 国内飲料事業の再成長

アサヒ飲料との共同出資で設立したダイナミックベンディングネットワークを中心に、スマート・オペレーション導入と混載オペレーションで自販機市場での優位性確立。

3. 非飲料領域の強化・育成

サプリメント通販事業「ロコモプロ」、医薬品ドリンク剤受託製造、たらみのフルーツゼリー事業を強化。

2. 海外飲料事業戦略の再構築

トルコ・ポーランドを中心に既存事業拡大。中国無糖茶製造も進める。健康ニーズ対応グローバルブランド育成。

4. グループミッション2030の推進

社会価値・環境価値・経済価値創出に向け、8つのマテリアリティ特定。CO2排出削減目標設定など脱炭素対応。

3 対処すべき課題

① 自販機市場環境の厳しさ

- ・ コロナ禍後の販売回復遅延と業界上位寡占化傾向
- ・ 原材料高騰とコスト増への対応
- ・ 消費者の節約志向への対応

② 海外事業の安定化

- ・ トルコ高インフレ・リラ安への継続対応
- ・ ポーランド買収企業の統合と市場環境変動への対応
- ・ 中国無糖茶製造の拡販推進

③ 気候変動・環境対応

- ・ CO2排出削減目標の設定と実行
- ・ サプライチェーン物理的リスク対応
- ・ TCFD対応による情報開示

面接で使えるポイント

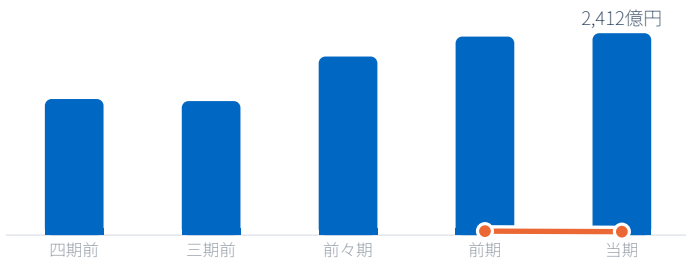
- ・ グループ理念「共存共栄」とダイナミックベンディングネットワークによる業界有数自販機網の一体運営。
- ・ グループミッション2030で2030年までに社会・環境・経済価値創出と持続可能な成長実現を目指す。
- ・ 国内飲料事業の再成長、海外展開（トルコ・ポーランド・中国）、非飲料事業強化の3本柱で中期経営計画2026を推進。

ダイドーグループホールディングス…

食料品 | プライム（内国株式） | 決算期 1月20日 | 連結…

証券コード 2590

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
2,412億円

営業利益率
1.7%

財務健康度
22点 / 100点

将来性 雨 / 就活偏差値 59.2（当サイト算出の参考指標）

平均年収
848万円
食料品内 17位/120社

平均年齢
40.8歳
食料品内 73位/121社

平均勤続
11.2年
食料品内 96位/121社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考：【ダイドーグループホールディングス株式会社 2025年度 F

ダイドーグループホールディングス株式会社 企業研究シート

出典: 企業スコープ (kigyو-scope.jp) / 金融庁 EDINET 有価証券報告書

将来性・就活偏差値・財務健康度は当サイト算出の参考指標です。

投資・就職の判断は必ず一次情報をご確認ください。 作成日 2026-08-05

